

令和3年

壱岐市議会定例会12月会議

# 行政報告

壱岐市

# 目 次

<b>1. はじめに</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）長崎県への要望書の提出について	2
（2）乗合タクシーの運行開始について	2
（3）複業人材の登用について	3
（4）洋上風力発電の導入可能性検討について	4
（5）壱岐市LINE公式アカウントの開設について	5
<b>2. 交流人口の拡大</b>	
（1）観光振興について	6
（2）壱岐市東京事務所について	7
<b>3. 産業の振興</b>	
（1）農業の振興について	8
（2）水産業の振興について	9
<b>4. 市民</b>	
（1）壱岐市子育て世帯等臨時特別支援事業（先行給付金）について	10
（2）新型コロナウイルスワクチン接種について	11
<b>5. 教育</b>	
（1）次代を担う壱岐っ子の県大会等での活躍について	11
（2）「V・ファーレン長崎」壱岐市サンクスマッチについて	12
（3）中学校統合10周年記念寄附について	13
<b>6. 防災、消防・救急</b>	
（1）防災対策について	14
（2）消防・救急について	16
<b>7. 議案説明</b>	
（1）補正予算について	16
（2）その他の議案について	17
<b>8. おわりに</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・	17

# 行政報告

令和3年壱岐市議会定例会12月会議

## 1. はじめに

本日ここに、令和3年壱岐市議会定例会12月会議にあたり、9月会議以降、本日までの市政の重要事項、及び今回補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

令和3年秋の叙勲において、本市から元壱岐市議会議員の久間<sup>くま</sup>進<sup>すすむ</sup>様が地方自治功勞として旭日双光章を、元壱岐市消防団団長の<sup>わりいし</sup>割石<sup>けんめい</sup>賢明様が消防功勞として瑞宝双光章を、第37回危険業務従事者叙勲において、元法務事務官の<sup>いちやま</sup>市山<sup>とみひろ</sup>富大様が矯正業務功勞として瑞宝双光章を受章されました。

また、長年、学校医としてご尽力いただいている<sup>あかぎ</sup>赤木<sup>よしひろ</sup>良寛様が教育文化功勞として県民表彰を受賞されました。

さらに、令和3年度ながさき農林業大賞において、本市から、しまの農林業経営部門で勝本町の<sup>やまもと</sup>山本<sup>としお</sup>利夫様、<sup>みほこ</sup>美萌子<sup>てつや</sup>様、<sup>えり</sup>江里様が長崎県知事賞を、農産加工部門で芦辺町の農事組合法人壱岐ゆず生産組合様が運営委員会賞を、令和3年度ながさき水産業大賞において、魅力ある経営体部門で郷ノ浦町漁業協同組合自営定置様が長崎県漁業協同組合連合会長賞を、魅力ある漁村地域部門で壱岐東部漁業協同組合一本釣り組合さわら<sup>きわみ</sup>「極」部会様が特別賞を受賞されました。

この度、叙勲、表彰の栄に浴された皆様に対し、今日まで築かれ

たご功績に、深甚なる敬意を表しますとともに、心からお慶び申し上げます。

### **(1) 長崎県への要望書の提出について**

去る11月4日に、長崎県並びに長崎県議会へ、壱岐市・壱岐市議会連名の単独要望を行いました。中村知事をはじめ幹部職員、そして県議会では、坂本<sup>さかもと</sup> 智徳<sup>ともり</sup> 議長にご対応いただいたところであります。本市からは、山本 啓介 県議会議員にもご同席いただき、10項目の要望書を豊坂議長とともに提出いたしました。

本年度要望のうち、1番目にあげております「空港の整備等について」は、本市にとって極めて重要な案件であります。今後、後継機の協議の状況等を待つこととし、今回は、重点要望項目として、「印通寺港施設整備について」、「地球温暖化防止対策に伴う再生可能エネルギーの導入促進について」及び「磯焼け対策に関する支援の拡充について」の3項目についてご説明申し上げます。

中村知事からは、印通寺港の港湾施設整備の沖防波堤について、その状況、対策方法について検討を進めていきたい、係留施設、泊地の整備については、安全安心な入港、停泊ができるようなマイナス6m岸壁及び泊地の早期事業化に向けて、前向きに検討を進めたい旨のご回答をいただきました。

今後も、市独自では対応できない事項等について、国、県の支援を賜りながら、継続して行政課題に取り組んでまいります。

### **(2) 乗合タクシーの運行開始について**

去る11月18日に、初山地区において市内初の乗合タクシー

(コミュニティバス)の運行出発式が行われました。

このことにより、初山地区にお住いの、運転免許や自家用車がない高齢者、子ども、障害者の方々など、いわゆる交通弱者と言われる方の足が確保されることで、安全安心な日常生活を送っていただけるものと考えております。

今回の運行開始に至るまで、初山地区まちづくり協議会の皆様には、多くの会議を重ねていただき、地域全体で運行に向けた取組を進めていただきましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。また、市内交通事業者におかれましても本事業に対しご理解、ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます次第であります。

### (3) 複業人材の登用について

去る11月12日、複業マッチングプラットフォーム「複業クラウド」を展開する「株式会社<sup>ア ナ ザ ー ワ ー ク ス</sup>Anotherworks（代表取締役CEO <sup>おおばやし なおとも</sup>大林尚朝様）」と、「民間複業人材との協働に関する連携協定」を締結いたしました。

今回推進する「複業」とは、金銭報酬・副収入を目的とした副業ではなく、経験報酬や感情報酬を目的とした「複業」であり、個人が様々な機会に挑戦する新しい働き方として、近年、注目が集まっており、自治体への複業人材を登用する実証実験に参加する形で、有能な民間人材の知見や才能を自治体に取り入れ、行政課題の解決を目指すものであります。

今回は、DX推進アドバイザー、ワーケーション推進アドバイザー、組織運営アドバイザーの3つの職種で求人を行い、12月から3月末

にかけて事業に取り組むこととしております。

コロナ禍が象徴するように、不安定な社会において、地域課題は複雑多様化しており、これらに対応していくためには、行政も柔軟に変化していく必要があります。職員が複業人材と共に働くことで、民間のノウハウを吸収し、課題解決力を高め、地方創生の実現に向けて、様々な課題に柔軟に対応できる行政組織づくりに努めてまいります。

#### **（４）洋上風力発電の導入可能性検討について**

イギリスで開催されていた国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議、いわゆる「<sup>コッブ</sup>ＣＯＰ26」が、11月13日に、「世界の平均気温の上昇を1.5度に抑える努力を追求することを決意する」等の成果文書を採択して閉幕いたしました。

本市としましては、この地球規模の危機を回避するために、再生可能エネルギーの果たす役割がますます大きくなると考えております。

本年度、市では、再生可能エネルギーの切り札的存在とも言える洋上風力発電の本市周辺海域での導入可能性の検討に取り組んでおり、これまで市民皆様へのアンケート調査、集落ごとの漁業者との意見交換、発電事業者との意見交換等を実施しております。

市民皆様へのアンケート調査では、再生可能エネルギーの導入については、約78%が「必要」という認識をお持ちであり、洋上風力発電導入によるCO2排出削減に大きな期待が寄せられている一方で、洋上風力発電及び市の取組に関する認知は必ずしも十分ではなく、海洋汚染、漁業への影響、電気料金への影響等、様々な面で不安や

懸念を持たれていることが読み取れました。この結果は、今後、市民皆様との合意形成を図るための大きな指針になるものと考えております。

今後はこれまで以上に、漁業者をはじめとする先行利用者や市民皆様と、十分に時間をかけて丁寧に対話を重ねるとともに、先行地域の事例等を検証しつつ、漁業や地域との共存共栄、そして漁業や地域の活性化にとって有益であることを大前提として、合意形成に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

#### **（５） 壱岐市LINE公式アカウントの開設について**

LINE等のSNS活用並びに情報発信及び住民意見の公聴強化の一環として、壱岐市LINE公式アカウントを開設いたしました。

LINEについては、既にご利用されている方も多いと思いますが、登録された利用者同士が交流できる国内最大のWebサイトの会員制サービス（SNS）で、8,900万人の方が利用されております。

また、本年3月時点で、政府機関等では78.2%、地方公共団体では64.8%の機関・団体が利用している状況であり、今回、長崎県市町村行政振興協議会から、県下市町がLINEを共同利用することについて提案があり、現在、本市を含め7市町が共同利用によるLINEの活用を開始しております。

市政情報やイベント情報、生活に役立つ情報をいち早く、確実に、お手元へお届けすることはもとより、市民皆様からの危険箇所等の通報、ご意見、ご提案等の受付をLINEで行うなど、双方向でのやり取りが可能となり、今後はLINEの機能を活用し、電子申請、

オンライン手続についても検討してまいります。LINEの友達登録の方法等について、市ホームページ、広報紙等でお知らせいたしますので、市民皆様には、ぜひ、壱岐市LINE公式アカウントへの登録とご活用をお願いいたします。

## 2. 交流人口の拡大

### (1) 観光振興について

本市における観光客数を推計する上で参考となる九州郵船とオリエンタルエアブリッジの本年1月から10月末までの乗降客数累計は、285,699人、対前年比85.4パーセントであり、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にありますが、今秋からの全国的な感染者数の減少に伴い、10月1日から全ての緊急事態宣言等が解除となったことから、本市への観光客も徐々にではありますが戻りつつある状況にあります。

教育旅行においては、10月以降、県内外から12校にご来島いただいております、11月12日から14日にかけては、本市では初めてとなる、純心中学校コーラス部と長崎県演奏家協会等との合同合宿にご来島いただき、去る11月13日に勝本町ふれあいセンターかざはやにおいて、チャリティコンサートを開催いただきました。

純心中学校コーラス部は、令和3年度長崎県中学校・高等学校文化活動推進校の強化指定校に指定され、全国大会にも出場されるなど実力のあるコーラス部であり、顧問の先生からは本市での合宿に対し、施設・環境を含め高い評価をいただいたところであります。



今後もスポーツ合宿誘致に加え、文化系合宿の誘致にも積極的に取り組んでまいります。

また、長崎県民限定観光キャンペーンを活用し、コロナ禍で影響を受けておられる本市の宿泊施設、レンタカー、タクシー、飲食店等の観光業支援の新たな取組として実施している対馬市との相互交流観光促進キャンペーンについては、全体で1,100人泊を超える申込み、また、市内における食事付き日帰りタクシープランも1,200名を超える申込みの状況であり、大変好評で市内経済に好影響を及ぼしたものと捉えております。

なお、長崎県民限定観光キャンペーンについては、感染状況が落ち着いていることから、年内に隣県の福岡県、熊本県、佐賀県への拡大が検討されており、国のGOTOトラベルキャンペーンも早ければ来年1月下旬から再開するとの報道がなされております。今後も引き続き、感染状況を注視しながら、県及び関係機関と連携し、観光需要の早期回復を目指してまいります。

## **(2) 壱岐市東京事務所について**

東京事務所については、昨年4月の開所から首都圏での活動基盤を構築するため、鋭意業務に取り組んでおります。開所から本年11月末までの旅行会社への訪問件数は延べ250件を超えており、レストラン等での壱岐フェア開催、サポートショップの開拓、移住相談対応、ふるさと納税の推進等を含めると、これまで600件以上の活動実績となっております。

開所2年目ではありますが、目に見えた効果も既に出てきており、

東京事務所の活動により壱岐への誘客につながった案件を観光消費額に換算すると、令和4年3月末までの見込みで4千5百万円を超えております。加えて物産販売促進及びふるさと納税に寄与した効果額を含めると、2年間で7千万円を超える効果を試算しております。

また、本年11月には、日比谷松本楼において1か月間にわたり「壱岐フェア」を開催していただき、期間中にご来店いただいた多くのお客様に壱岐の食材を使ったメニューをご注文いただいております。さらに店舗内での壱岐のPR動画の放映、ポスター、パンフレットの配置等、まさに店内は壱岐一色となるなど、大きな宣伝効果があったものと考えております。

首都圏の由緒ある有名店において本市を宣伝していただけることは大変ありがたく、壱岐市観光大使を務めていただいている代表取締役社長 こさか あやの 小坂 文乃 様をはじめ、スタッフ皆様に感謝を申し上げる次第であります。

### 3. 産業の振興

#### (1) 農業の振興について

本年度の水稻の作柄は、6月中旬及び分けつ期の7月上旬が平年に比べ日照不足で経過し、8月中旬は大雨等、平年に比べ気温が低く、長崎県全体の作況指数は96、本市においては98となっております。

等級成績は、早期米については、「コシヒカリ」のほとんどが2等でしたが、高温耐性の「つや姫」は全て1等となり、普通期米については、「にこまる」と「なつほのか」も全て1等となりました。

葉たばこについては、7月に降雨がなく水分不足となり、日焼けによる枯れ上がり等収穫ロスがあったものの、全体的に好天候に恵まれ、平均収量は、10アール当たり265kgと昨年と比較すると大きく増加しております。10月7日から13日にかけて行われた葉たばこ販売では、1kg当たりの代金は2,017円と昨年を下回ったものの、10アール当たりの代金は535,359円と昨年と比較すると約10万円高となりました。

一方で、国産葉の過剰在庫解消のための廃作募集によって、令和4年作は耕作者12名（前年比11名減）、面積30.5ヘクタール（前年比18.2ヘクタール減）と大きく減少します。

肉用牛経営については、新型コロナウイルス感染症の影響により枝肉価格の低迷が続いておりましたが、10月と11月の枝肉平均価格が昨年並みの水準となり、回復基調となっております。

このような中、12月1日、2日に開催された子牛市では、平均価格が10月市と比較し、1頭当たり約1万4千円高の平均76万2千円で、価格を上げた取引となっております。

今後も、産地維持のため関係機関と連携を図り、肉用牛における基盤の強化を推進してまいります。

## **（2）水産業の振興について**

本年4月から10月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年同期と比較しますと、漁獲量は1,382トンの6.9%増、漁獲高は11億7千9百万円の3.8%増と漁獲量、漁獲高ともに増加しております。4月から6月までのケンサキイカ漁が好調であったことが

増加の主な要因ではありますが、他の魚種については、漁獲量も減少し、魚価についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて低迷が続いており、燃油高騰も加わり、漁業者の経営維持は大変厳しい状況にあります。

このような中、本年度の長崎県並びに長崎県議会への要望項目のうち、クロマグロの漁獲制限については、沿岸漁業の漁獲枠の拡大、資源管理に伴う減収補填措置の充実、放流支援の充実等、国への働きかけを要望し、併せて、磯焼け対策についても植食性動物の駆除等に関する支援の拡充を要望したところであります。

依然として、本市水産業は大変厳しい状況が続いておりますが、今後も引き続き漁業者の皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図り、水産振興に積極的に取り組んでまいります。

## 4. 市民

### (1) 壱岐市子育て世帯等臨時特別支援事業（先行給付金）について

本事業は、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、子育て世帯について、子どもたちを力強く支援し、その未来を拓く観点から、全額国の負担により、児童を養育している主たる保護者の年収が児童手当の所得制限額以上の世帯を除き、0歳から高校3年生までの子ども1人当たり5万円を支給するものです。

国においては、児童手当の仕組みを活用するなど、迅速に支給することとされておりますので、予算については専決処分により対応させていただき、年内の支給開始に向け取り組んでいるところであります。

## **(2) 新型コロナウイルスワクチン接種について**

新型コロナウイルスワクチン接種については、本市における12歳以上の市民皆様の89%が2回目の接種を完了されております。

国においては、2回目の接種後、原則8か月経過した方から3回目の接種を実施するよう決定がなされており、本市においても、3回目の接種体制について壱岐医師会と相談の上、既に準備に取り掛かっておりますので、12月中には接種を開始する予定としております。市民皆様には、順次ご案内申し上げる予定でありますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は8月下旬から減少傾向を示しており、本市においても10月6日以降、新たな感染者は確認されておりませんが、新たな変異ウイルス、オミクロン株の発生による第6波の到来も懸念されており、さらに注意すべきは季節性インフルエンザの同時流行と言われております。

今後、感染の再拡大を招かないためにも、市民皆様には、引き続き、マスクの着用、手指消毒など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

## **5. 教育**

### **(1) 次代を担う壱岐っ子の県大会等での活躍について**

10月23日、24日に長崎市総合運動公園かきどまり運動広場で開催された長崎県中学校ソフトボール競技新人大会に出場した勝本中学校女子ソフトボール部が、見事優勝いたしました。

また、10月30日、31日に開催された長崎県中学陸上競技新人大会に出場した郷ノ浦中学校の<sup>ふくはら ゆうご</sup>福原 悠吾 さんが1年男子100メートルの部において12秒20の記録で県中総体に続いて見事優勝、同じく郷ノ浦中学校2年<sup>ながおか みお</sup>長岡 美桜 さんが共通女子走り幅跳びの部において4メートル43センチの記録で第4位という成績を収めました。

さらに、11月13日、14日に西海市の大島<sup>わかうど</sup>若人の森運動公園を主会場として開催された長崎県中学校軟式野球競技新人戦大会に出場した郷ノ浦中学校野球部が見事優勝し、来年3月に熊本県で開催される九州大会への出場権を獲得しました。

同校は、11月27日、28日に諫早市営第1野球場を主会場に開催された2021年度 日本プロ野球OBクラブ杯 第12回長崎県中学生野球大会も前大会に引き続き優勝いたしました。

11月5日には、諫早市の県立総合運動公園周回コースで開催された第73回長崎県高校駅伝大会女子の部で、諫早高校が3年連続27度目の優勝を飾りましたが、3区において、チームで唯一の1年生、郷ノ浦中学校出身の<sup>のむら なつき</sup>野村 夏希 さんが10分02秒で区間賞を、アンカーの5区において芦辺中学校出身の2年生<sup>たなか さくら</sup>田中 咲蘭 さんが16分23秒で同じく区間賞の快走で、連覇に大きく貢献いたしました。

壱岐の子どもたちの活躍を大変うれしく頼もしく思いますとともに、今後、益々の活躍を期待しております。

## (2)「V・ファーレン長崎」壱岐市サンクスマッチについて

長崎県をホームタウンとするサッカークラブ「V・ファーレン長崎」は、

11月28日、ホームゲーム最終戦である「ファジアーノ岡山」戦を壱岐市サンクスマッチとして開催されました。

当日は、私も、小学生25名、引率者5名とともに招待を受け、応援に駆け付けたところであり、試合開始前にチームの応援・激励の挨拶をさせていただくとともに、大型スクリーンでの市PR動画放映、スタジアム場外に設置した壱岐市のPRブースでは、壱岐産牡蠣だしのあおさスープと丸天の販売、ハーフタイムに行われた抽選会では、特産品の「壱岐海産物セット」のプレゼント、クラブのYouTube生配信では、5名の子どもたちが人面石くんとともに出演し、観光地や特産品を紹介するなど、会場に集まったサポーターをはじめ多くの皆様に対し、本市のPRを行ってまいりました。

壱岐少年サッカークラブの子どもたちは、スタジアム横のサブグラウンドにて、V・ファーレン長崎スクール生との交流試合及びスクールコーチによるサッカー教室を受講し、また、試合開始前には、フェアプレーフラッグと壱岐市フラッグベアラー及びエスコートキッズを務めるなど、同クラブから大変貴重な体験の場を提供していただいたところでもあります。

今後も、地元自治体との連携を図る「V・ファーレン長崎」を、壱岐市は応援してまいります。

### **（3）中学校統合10周年記念寄附について**

本年、市立中学校が規模適正化により4校に統合され、10周年を迎えるに当たり、東京壱岐雪州会（久原 順一 会長）様より、市内中学校に対し「中学校統合10周年記念」として20万円のご寄附

をいただきました。

この寄附金については、子どもたちの学力向上、読書力向上のため、図書購入費の一助として役立てていただきたいとの趣旨でありますので、今回、補正予算に計上するとともに、各中学校において有効に活用させていただきます。

## 6. 防災、消防・救急

### (1) 防災対策について

9月17日に本市を通過した台風14号は、壱岐空港で最大瞬間風速34.5 m/s を記録し、光ケーブルの断線、倒木等、多数の被害があり、市内で最大6,053世帯において長時間に及ぶ停電が発生し、電力供給網の重要性を再認識したところです。

また、まちづくり協議会及び自主防災組織において、11月7日に箱崎地区及び八幡地区が、地域住民皆様の参加のもと、防災避難訓練を実施されるなど、災害時に欠かせない自助、共助、公助の充実強化が図られているところであります。

そのような中、去る11月20日に、島原市で開催された「地域防災力充実強化大会 in 長崎2021」に、パネリストとしてリモート参加し、本市の消防団、自主防災組織及びまちづくり協議会等の取組について紹介するとともに、防災関係者等と議論を交わしました。

今後も各関係機関がお互いの力を発揮し、地域防災力の充実が図られるよう連携強化を図ってまいります。

次に、原子力防災について、政府は10月22日に第6次エネル



ギー基本計画を閣議決定しましたが、2030年の電源構成比率で原子力発電は20～22%に据え置かれており、現に全国で7基の原子炉が稼働しております。

東京電力福島第一原子力発電所の事故後、原子力の安全神話が崩れ、玄海原子力発電所に対しても、市民皆様の多くが事故等へ不安を抱いている状況にある中で、去る11月11日、県主催による長崎県原子力安全連絡会が石田農村環境改善センターで開催されました。県、市、九州電力及び各関係機関の代表者19名が出席し、玄海原子力発電所に関する防災対策等について、情報の共有化及び意見交換を行ったところであります。

このような中、11月16日午前2時頃、九州電力玄海原発3、4号機のテロ対策施設「特定重大事故等対処施設」の建設工事現場で火災が発生しました。このことは、市民皆様の不安を増大させ、信頼を損なうものであり、11月22日、九州電力株式会社立地コミュニケーション本部を市役所に呼び、根本的な原因の検証と対策を強く求めたところであります。

原子力発電は再生可能エネルギー同様、脱炭素社会におけるエネルギー供給構成の1つとされており、玄海原子力発電所が稼働している現状においては、国、県、九州電力との情報共有や、万が一事故が発生した場合の避難対策の充実を更に図っていくことが重要であり、今年度も12月4日に長崎県及び本市を含めた県内4市と関係機関合同による長崎県原子力防災訓練を開催いたしました。

昨年同様、コロナ禍により、福岡県への避難を想定した広域避難訓練

は実施できませんでしたが、芦辺町恵美須漁港及び諸津漁港を使用し、沖に停泊する海上自衛隊艦船に対する乗船訓練を行うとともに、初山地区においては、避難に間に合わず取り残された要支援者をコミュニティバスでかざはやまで避難させるという訓練も実施し、緊急時における多様な避難手段の検証を行うことができたところであります。

今後も、関係機関と十分連携を図り、市民皆様の安全・安心を最優先に、実践的な訓練を一つひとつ積み重ねながら、成果と課題を十分に検証し、今後の防災対策に万全を期してまいりますので、市民皆様には、防災意識の向上にご理解とご協力をお願いいたします。

## **(2) 消防・救急について**

救急車の出動件数については、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、不要不急の外出を控える傾向にあったこともあり、一昨年と比較し減少しておりましたが、本年は昨年より増加しております。

また、一刻を争う高度な緊急医療を行うドクターヘリの急患搬送件数が増加している状況にあります。

これから年末年始にかけ、火気を取り扱う機会が増え、空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期となりますので、市民皆様には、火の取扱いに十分ご注意くださいようお願いいたします。

## **7. 議案説明**

次に、議案関係についてご説明いたします。

### **(1) 補正予算について**

本議会に提出した令和3年度補正予算の概要は、

一般会計補正額 △400万5千円  
各特別会計の補正総額 3,044万5千円  
となり、本定例会に提出いたしました一般会計、各特別会計の補正  
額の合計は、 2,644万円  
となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、  
236億2,174万6千円  
で、特別会計については、 85億3,175万5千円  
となっております。

## (2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、予算の専決処分の報告1件、  
条例の制定・一部改正に係る案件8件、公の施設の指定管理者の指定  
に係る案件4件、予算案件5件であります。

何とぞ慎重にご審議をいただき、適正なるご決定を賜りますよう  
お願い申し上げます。

## 8. おわりに

以上をもちまして、9月会議以降の市政の重要事項また政策等  
について申し述べましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、  
全力で取り組んでまいりますので、議員各位並びに市民  
皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年12月9日

壱岐市長 白川博一